

### 1. 安全な場所に停車する。できるだけ落ち着く!

まず自分と相手の体に怪我が無いかを確認する。負傷の疑いがある場合は直ぐに救急車を呼ぶ。(夜間のフリーウェイ上など危険な場合はいきなり外に出ない方がよい)

### 2. 車両を移動する。

安全で広い場所であれば警察が来るまで車両を動かさずに待つ。フリーウェイ上であれば後の交通渋滞を避けるために路肩に双方の車両を移動する。

### 3. 警察に連絡する。

事故の処理を円滑に進めるためにも必ず警察(911)に電話する。事故の大きさによっては警察が来てくれない場合があり、その場合双方の情報交換に移る。救急車が必要な場合にも911に電話する。自分の居場所や状況などを正確に伝える。

### 4. 情報を交換する。

双方無事を確認したら下記の記録と情報を取得する。(万が一の事故に備え紙とペンを常備しておく)

— 記録すべき情報 —

- 事故の状況をメモする。(可能なら現場や損傷部分の写真を撮る)

事故発生日時:
事故発生場所:
目撃者の名前:
目撃者の住所:
目撃者の電話番号:

(目撃者の情報は、自分に責任がない場合に非常に重要!)

— 相手車両の運転手から取得すべき情報 —

- Driver License(運転免許証)を見せてもらう。(相手の運転免許証がどこの州のものかも確認する。可能なら写真を撮る)

名前:
住所:
運転免許証番号:
電話番号:

- Vehicle Registration(車両登録証)を見せてもらう。(可能なら写真を撮る)

車両オーナーの名前:
車両オーナーの住所:
車両VINナンバー:
車両ライセンスプレートナンバー:
車両メーカーと車種:
車両年式と色などの情報:

- Car Insurance(車両保険証)を見せてもらう。(可能なら写真を撮る)

車両保険会社名:
車両保険ポリシーナンバー:
車両保険名義者名:
車両保険の代理店情報:

### 5. 警察官に説明する。

警察官が到着したら以下の3点を手渡し事故の状況を説明する。その後は警察官の支持に従う。(事故が自分に責任があるかどうか分からない場合は、謝るなどの過失を認める発言はひかえたほうが良い)

- Driver License(運転免許証)
- Vehicle Registration(車両登録証)
- Car Insurance(車両保険証)

## 6. 車両保険会社へ連絡する。

すぐに自分の車両保険会社(もしくは車両保険ブローカー)に電話をし、自分と相手側の情報や事故の状況をなるべく詳しく伝える。大きな事故ではない場合は、事故現場から離れて一旦落ち着いてから電話しても良い。事故を連絡した時点でケースID番号が発行され、その後は双方の車両保険会社間の交渉やりとりになり、事故車両の取り調べなどの指示がある場合はその都度従う。アメリカでは車両保険会社によっては日本語同時通訳で電話対応してくれる会社もある。

### 車両の修理が必要な場合:

車両保険会社が紹介する修理工場もあるが自分で修理工場を選ぶこともできる。板金・塗装修理は仕上がりに状況についてトラブルになることもあるので、安心して任せられる車両修理工場に持って行くのがベスト。

### \$750以上の損害が出た場合:

死者や負傷者が出た場合や自分に大きな損害がある場合は、(自分が必要だと思ったら)弁護士に相談する。

また事故後10日以内にSR1フォーム(<https://www.dmv.ca.gov/forms/sr/sr1.pdf>)に記入後、サクラメントのDMVオフィスに郵送し事故を報告する。(以上の報告をしないと、運転免許証の停止など大きなペナルティーになるので注意!)

備考) 駐車している車両や他人の所有物に自分の車両をぶつけた場合は、その所有者を見つけるか自分の連絡先などの情報をメモしわかりやすい場所に残す。